

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
サイバー空間基盤技術	ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術	1	1	経済的な成長と社会課題解決のため、国内におけるビッグデータのプラットフォームの構築とAIを活用した多くのイノベーションの創造を期待。	今後の検討において参考とさせていただきます。
	3件	1	2	欧米の取り組みに負けないSociety 5.0が目指す基盤技術の早期実現に向け、フィジカル空間デジタルデータ処理基盤等、他のSIPとの連携が必要。(同様1件)	計画書に記載の通り、他のSIPとの連携を推進致します。
フィジカル空間基盤	フィジカル空間デジタルデータ処理基盤 89件	2	1	「センシングや学習結果データの権利設定」、「データ流通におけるデータ信用度」、「データ流通市場のあるべき姿」、「日本国が主導して世界に拡大させていくための方法」、「データ転送技術」、「クラウドとエッジの処理分担」、「プラットフォームの組み込みOS連動」、「フィジカル空間での高度なAI処理」、「自律航法技術」、「センサのCPUに負荷をかけないアルゴリズム構築」、「センサの耐環境性能の確立」、「デバイスのパワーマネジメント」、「ロボット等フィジカル空間独自の技術開発」、「中小ベンチャー利活用のための環境構築」、「無線ネットワーク仮想化や自立制御技術」、「ストレージ分野」、「型内組立技術」、「データの消滅時間情報付与」、「ロボット」、「クラウドに過度の依存しない新しいアーキテクチャー」等、研究開発内容の提案。(同様12件)	いただいた御意見を踏まえ、研究開発計画の内容の一部を見直しました。
		2	2	「超低消費電力チップは重要」、「スピントロニクスに期待してる」、「スピントロニクス技術開発と実用化が重要」、「センサ周辺でのデータ処理にはデータが消えない不揮発化が極めて重要」等の意見。(同様70件)	いただいた御意見を踏まえ、研究開発計画の内容の一部を見直しました。
		2	3	「サブテーマIでエッジモジュールの開発項目を追加」、「コンソーシアム機能の追加」等、研究体制の提案。(同様3件)	いただいた御意見を踏まえ、研究開発計画の内容の一部を見直しました。
		2	4	知財委員会について、課題または課題を構成する研究項目ごとに知財委員会が設置されることになるのか。	知財委員会はフィジカル空間基盤領域で1つ設置する方針としております。
		2	5	「数値目標が不明瞭」、「申請時にコンソーシアムが必須なのか曖昧」、「コンソーシアムの定義が不明瞭」等の意見。(同様2件)	御意見を踏まえ、数値目標やコンソーシアムが必須かどうかなど定義を明瞭になるように研究開発計画を修正しました。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		2	6	研究開発事業終了後のプラットフォームの普及活動事業を国の施策として支援を行うことをスコープに入れるべきである。	今後の検討において参考とさせていただきます。
		2	7	「SIPの各テーマ及び各テーマを所管する省庁間での連携強化」、「PD間で密接に連携すべき」、「国研や大学、産業界も参加するエコシステムを構築し、社会実装できる仕組み構築」、「SIPは3テーマづつぐらいが更新される運用とすべき」等のSIP全体に対するご意見。(同様2件)	いただいた御意見を踏まえ、研究開発計画の内容の一部を見直しました。
		2	8	他のSIP課題と連携すべき。(同様3件)	いただいた御意見を踏まえ、相互に連携する課題間のテーマ名を具体的に記載しました。
		2	9	(サブテーマIに関して)先行した取り組みがなされている、産業界のプラットフォームとの連携を考えてもらいたい。	今後の検討において参考とさせていただきます。
セキュリティ	IoT社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ	3	1	研究開発を進めるにあたり、研究開発動向や政策動向を行って進めるという点は非常に良いが、各技術開発の視点での調査範囲が狭くなったり、各技術開発グループで重複した調査を行うことがあり得る。	御意見を踏まえ、共通的な動向調査についてはテーマごとではなく、横断的に行い課題を推進します。
	3件	3	2	本課題の研究開発計画の概要を支持する。特に、サイバーの脅威の高まりとともに、海外のサイバーセキュリティ施策がグローバルにビジネスを行う日本企業に影響するリスクや、一企業に対するサイバー攻撃の被害がサプライチェーンを構成する複数の企業に伝播するなどのリスクを最小化するセキュアトラスト基盤の社会実装を期待する。	賛同意見として承りました。御期待に沿えるよう、課題を推進します。
		3	3	中小企業向けセキュリティサポートセンターについての構想提案。会社の「情報セキュリティ」確保を安価にサポートすべく、セキュリティサポートセンターを設立し、そこからセキュリティシェアードサービスを提供する。情報セキュリティが、侵入防止のための技術的対策に偏りがちであるが、ここでは管理面を重視し、「リスク対策」としてのセキュリティ対応ができるように指導してゆくことを目的として活動する。	今後の検討において参考とさせていただきます。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
自動走行	自動運転(システムとサービスの拡張) 5件	4	1	自動運転車の普及により、交通渋滞が悪化することも懸念される。自動運転が社会に及ぼす影響を定量的に検討し、より良い社会を目指し取り組んで頂きたい。	いただいた御意見を踏まえ、施策を推進して参りたいと考えております。
		4	2	研究開発を進める上で、特に「車両区分の見直し」、「道路環境の整備」については、地域ごとの特性や時期の前倒しも含めて、ご検討頂きたい。	自動運転を実現する為に必要なインフラの整備については、実証実験による課題の解決と有効性を見極めを行いつつ、必要な施策・法制度の整備についても関係府省庁連携の下、推進して参ります。
材料開発基盤	統合型材料開発システムによるマテリアル革命 5件	5	1	粉末三次元積層造形の重要課題が粉末価格の低減であることは関係者の共通認識であるが、新規プロセス導入で大幅にコスト低減出来れば、粉末三次元積層造形技術普及の起爆剤になると期待。一方で、本計画案に書かれていない「成分設計・探索」についても取組が必要であり、例えば別プロジェクト等において新成分探索効率化を視点とした相補的な政策取組が必要と史料。	今後の検討において参考とさせていただきます。
		5	2	MIの計算モジュールの選択においては以下の点を十分に検討する必要がある。 ・各計算手法の綿密な検討を行うこと。(スケール域や計算対象に応じて適切なものを選択することが精度や計算時間の観点から重要) ・我が国の手法で国際的に優れているもの、ユニークなものを取り入れること。 また、複数の計算モジュールのシステム化においては、空間スケールのみならず、時間スケールも含めて整合的に動くような工夫が必要。	今後行う研究実施者の公募及び施策検討の参考とさせていただきます。
		5	3	材料開発コスト、期間を50%以下にする図表1の全体構想、Society5.0の目標は極めて低レベルである。20年前に東工大で始まり、NIMSとの連携PJコンビナトリアル材料科学と新産業への展開以下であり、材料開発のスピードを1,000倍にできることを実証している。IoT/AIを付加し、「モノ作り」プロセスのゲームチェンジではなく、時間とエネルギー多消費の“Labor”からスマートゲームに進化させ、DIYマテリアルの世界を開く「働き方改革」を目指すべき。	目標設定は事業の進捗に応じて見直していきます。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		5	4	データベース構築は重要。データベースをどのように作るかに関する例示や、データベース構築法に関する概念図があると分かり易い。	御指摘のとおり、本プロジェクトの遂行にはデータベース構築が極めて重要と考えています。今後行う研究実施者の公募において具体的なデータベース構築の方法についても審査の上で採択するとともに、実施者決定後は研究開発計画に反映したいと考えています。
		5	5	最新のAI技術に基づいた逆問題アルゴリズムの開発には、情報科学、データ科学だけではなく物理、化学、数学の原理と組み合わせ、知識を蓄積させていくことが重要。開発したMI基盤の拡張・強化には力を入れて取り組むべき。	今後行う研究実施者の公募及び施策検討の参考とさせていただきます。
バイオ・農業	スマートバイオ産業・農業基盤技術 22件	7	1	水産業のスマート化も重要。また、生産管理だけでなく、加工、流通、消費までのトータルのシステムとして発展を目指す必要。第2期SIPが機能することで、多様な価値を最大限に高めることができる水産システムの社会実装が効果的に促進されると考える。(同様9件)	水産業のスマート化は重要と認識しており、当課題で取り組むスマートフードチェーンシステムは水産物も対象としております。
		7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト応募にあたっては知財の取り扱いを明確に示してほしい。 ・品種育成について、品種の登録には時間がかかるなど素材開発とは別の事情を勘案する必要。 ・葉のように健康増進できる品種を作出するのは容易ではない。 ・外向きの受けがよいものだけでなく、地に足がついた研究ができる予算の枠組みが必要。 ・民間のために技術開発をしながら、実は民間が必要としていない技術開発になっている部分もある。 	今後の公募、採択に当たっての参考とさせていただきます。
		7	3	高コストの植物由来樹脂に安価な植物性紛体を混合することによる低コスト生分解性資材の開発を提案。(同様2件)	今後の検討において参考とさせていただきます。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		7	4	生活習慣病リスクの低減、健康寿命の延伸等への貢献を目指すには、生鮮食品のみならず、サプリメント・添加物の機能性のエビデンス確保と機能性素材の種類拡大を進めることが重要であり、これらの目標も掲げるべき。	現在の評価方法では生鮮食品の機能性表示が困難なこと、機能性表示されたサプリメント・添加物の開発は民間企業等で実施されていることなどから、当課題では、健康の源である「食」を通じた新たな健康システムの確立を目指しており、食材の中心である生鮮食品に焦点を当てた目標・研究開発の内容を設定しています。なお、高機能なサプリメント等については、その開発に資する科学的エビデンスの蓄積や軽度体調変化判定システムの開発等を当課題において遂行することを考えております。
		7	5	新たな育種技術や育種素材が開発されることにより、各県で行っている新品種育成が加速することを期待。	今後の検討において参考とさせていただきます。
		7	6	植物の生理活性を高める新たなタイプの農業資材(バイオスティミュラント資材)の開発とその社会実装に向けた取組を提案。	当課題では植物-微生物共生に着目して植物の生理活性を高める新たな農業資材の開発を行います。社会実装に向けた取組については今後の検討の参考とさせていただきます。
		7	7	大規模な組織だけでなく、規模は小さくても有用な研究シーズをもつグループの力も活用できるよう、一部の課題に対応できる小規模グループも応募可能とされることを希望。	公募に際しては、一部の課題に対応した小規模グループの応募も可能といたします。
		7	8	包装技術は飛躍的な発展を遂げており、これらの技術による食品のロングライフ化とそれによる「食品ロス」の削減を提案。	今後の検討において参考とさせていただきます。
		7	9	本課題の研究開発計画の概要を支持する。特に、スマートフードチェーンシステムの構築や高機能製品の産業化により、産業振興はもとより、我が国が地球規模の諸課題の解決をリードしていくことを期待している。	今後の検討において参考とさせていただきます。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		7	10	農産物は生物体であり、流通環境によって品質が大きく変化するため、流通環境の情報も伝える必要がある。また、食品の品質(鮮度)予測、ミニマムヒーティング技術等を組み合わせ、高品質・(超)長期貯蔵システムを構築するなどがなければ、食品・農産物の効率化や高付加価値化にはつながらないと考える。	農産物の流通環境の情報収集は当課題において取り組むこととしています。食品の品質(鮮度)予測などの技術の活用については、当課題の推進において参考とさせていただきます。
		7	11	ゲノム編集農作物の普及のための方策について、生産・商業販売の事例の実現を通じて農林水産事業者・食品企業等のさらなる参入を促進することは非常に重要。実施に当たっては、実用化研究と国民理解を進めるコンソーシアム間で連携する仕組みがあると良い。	ゲノム編集作物をはじめバイオテクノロジーに関する国民理解の促進のための取組は、他の関係するコンソーシアムと連携して取り組むことといたします。
		7	12	タマネギの育種分野で「データ駆動型育種」の研究開発に参加を希望する。その際、企業秘密の材料を用いることから情報公開の際は配慮を願う。	今後、公募を行いますので応募を御検討ください。企業秘密等知財の扱いについてはあらかじめ管理法人との契約等により定めることとしております。
		7	13	本課題への応募を検討しているが、再委託先が発明したフォアグラウンド知財権(SIPの事業費より発生した知財権)の取扱いについて、県の方針と異なる場合、問題が生じる恐れがある。	今後の公募に当たっての参考とさせていただきますが、SIPは研究開発成果の事業化、実用化を指向しており、こうした観点から知財を取り扱う必要があると考えております。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
エネルギー・環境	脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム 21件	8	1	研究開発計画(案)には、すでに記載されているが、ぜひとも、この考え方に沿って、エネルギーシステムのグランドデザインの取りまとめをお願いしたい。	いただいた御意見は研究開発計画に記載している内容に沿うものと考えております。事業実施に当たっては、本計画に従い、適宜必要な見直しを図りながら着実に進めさせて頂きたいと考えております。
		8	2	世界に先駆けてSociety 5.0の実現をお願いしたい。	
		8	3	現在の日本の膜分離技術は高く、日本はこれまで積み上げてきた技術を「他国に先駆け実用化する技術開発」は非常に重要。(同様3件)	
		8	4	革新的炭素資源高度利用技術は、有効なCO2の排出削減手法として、高い実現可能性と、経済合理性を兼ね備えた技術。(同様2件)	
		8	5	メタンの利用開発は、シェールガスを利用した水素製造プロセスの高度化に寄与するものであり、このような技術開発は将来の水素社会の構築に向けて極めて重要。(同様1件)	
		8	6	従来技術と比較して低温で利用可能な酸素分離膜材料の開発と実用化は、酸素を必要とする種々の化学プロセスへの応用が期待される。(同様2件)	
		8	7	当面は比較的豊富で安価なメタンを原料とするという点と、いずれは二酸化炭素の炭素資源化にも役立つことを見越している点で、現時点においてもそして将来においても非常に日本の産業競争力を高め、持続可能な社会に貢献する技術になる。	
		8	8	システム全体としての二酸化炭素削減効果を最大限にするという意味で、LCAの評価手法開発課題が横串のような役割で入っているのも、プロジェクト全体としてよく考えられている。(同様3件)	
		8	9	現在、低温、高圧条件の蒸留で分離を行っており、非常に大きなエネルギーを消費している。この分離を、膜分離に置き換えられれば、大きな省エネルギー化ができる。(同様2件)	
		8	10	最先端の素材メーカーの技術を集積し課題を克服しながら、強いデバイス企業との強い連携を持ち、出口を見据えたスピードを速めた開発が望まれます。	
		8	11	SIPという旧来の枠にとらわれない協同の場から、脱炭素社会を実現するための革新的技術やシステムが生まれる事を期待します。	

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		8	12	我が国が非接触型を推進するのであれば、設置・維持コストの点で有利な電界方式(道路に埋設した鉄網で給電可能)も選択枝に加えるべきと考えます。	電界方式についても、研究開発計画を進める上での有力な方式の一つになると考えられます。事業実施に当たっては、各方式のトレードオフの結果なども踏まえ、最適な方式を見極めつつ、着実に進めていきたいと考えております。
		8	13	光ファイバーセンシングを使った地熱発電に力を入れれば、将来、エネルギー問題もCO2問題も無くなります。	経済産業省では、光ファイバーセンシングによる地熱貯留槽探査の可能性探求や超臨界地熱発電等新しい技術も含めて実用化に向けて開発を実施していると聞いております。
		8	14	実装に向けては、技術開発の他、国際的な制度化や標準化を更に具体化し、膨大な官民のインフラ投資を呼び込むビジネスモデルの構築など、幅広い課題解決を視野に入れた取り組みを期待する。	いただいた御意見も参考に、技術規格の策定や国際標準化に向けた取組を実施したいと考えています。また、産業化に有効なビジネスモデルの構築についても重要な課題として取組を実施したいと考えています。
		8	15	現在遂行中のSIP第1期「次世代パワーエレクトロニクス」において、横型Ga2O3 MOSFET、縦型Ga2O3 ショットキーバリアダイオード、縦型ノーマリーオンGa2O3 MOSFETと順調に開発の歩を進めてきております。つきましては、SIP第1期にて培った基盤技術を元に、本SIP第2期において縦型ノーマリーオフGa2O3 MOSFET開発を継続して進めることをご考慮頂けますと幸いです。	いただいた御意見は研究開発計画で記載している内容に沿うものと考えております。事業実施に当たっては、本計画に従い、適宜必要な見直しを図りながら着実に進めさせて頂きたいと考えております。
		8	16	USPMに組み込むためにはコントローラモジュール自体も高温動作可能が求められる故、高速デジタルコントローラ自体をWBG系半導体で構成する必要があることを、開発の技術的ポイント(1)WBG系半導体向け高速デジタルコントローラの開発の項に明記するべきである。	USPMでの高速デジタルコントローラ、およびゲート駆動回路の研究開発を推進する上での参考にさせていただきます。 なお、動作パワーチップの連続動作時のデバイス温度が高温であった場合でも、近辺に設置される高速デジタルコントローラ、ゲート駆動回路の冷却技術や実装上のレイアウトによって対応することも考えられますので、高速デジタルコントローラ自体をWBG系半導体で構成することに絞ることなく研究を進めることにしたいと考えています。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		8	17	<p>1)課題全般について 社会実装の定義が不明瞭なので、明確化して欲しいと思います。社会実装が開発技術の市場投入という意味であれば、壁はかなり厚いと考えます。社会実装を見通すには、開発対象の技術が存在するだけでは不十分で、寿命設計(寿命保証)等も必要です。5年の事業機関では技術検証までは出来ると考えられますが、寿命の見通しを得るには不足と考えます。 社会実装の内容によっては、企業として参加するのが困難となる懸念がある。</p>	<p>社会実装については、各課題、研究テーマの難易度、進捗状況によって、「実機テスト」「量産化前」等それぞれ段階があると思います。また、最大5年間で出口をどこに置くかも重要な研究開発計画の重要な項目です。</p>
		8	18	<p>2)エネルギーマネジメント技術について 研究で明らかとなる課題は(B)～(D)単独では解決できない複数システムの統合運用に関する内容の方が主となると考えられます。よって、2021年度以降も活動を継続し、大規模システムの統合的運用についても議論を深める様にしたいと考えます。</p>	<p>2021年に3年間の研究開発結果を踏まえ、さらに持続する必要があるかの判断を行う予定です。</p>
		8	19	<p>3)ワイヤレス電力伝送システムについて 日本が社会実装を狙って勝てるのか、予備調査が必要ではないでしょうか。また、マイクロ波給電は、コスト、効率、EMCの課題から、実現するためのハードルが高いと考えられ、5年後の社会実装に至るのは困難と思われます。</p>	<p>御指摘の通り、走行中非接触給電の社会実装に関しては、インフラコストやその投資を回収できるビジネスモデルを構築することが重要と考えております。このような課題の検討についても研究開発計画の中で取り組む予定です。マイクロ波給電についても、コスト、効率、EMCの課題について十分認識し、検討した上で、実用化に向けて技術課題のみならず、経済的な観点からの解決策を提示できるような研究開発を進めていく予定です。</p>

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		8	20	<p>4)ユニバーサルスマートパワーモジュールについて これらSiパワエレで実現されていない機能をWBG系で実現するには、技術実証で5年程度はかかるかと想定され、社会実装を見通すのは難しいと考えます。 P.16の6行目；電流容量の目標は、用途に挙げられている例(同ページの2～3行目)から考えた場合、不足があると考えられます。100～200A級を見通す事が出来る技術を獲得する必要があると考えます。また、パワエレとして必要なのは素子性能であるので、縦型MOSFETに限定する必要は無いと考えます。</p>	<p>高速デジタル制御はSiパワエレで求められてきた以上に、より高速で動作するWBG系パワエレでは重要な技術と考えています。したがって、USPMでは御指摘の懸念に対峙し、高速デジタル制御の研究を推進し、早期社会実装が可能となるように取り組みたいと考えております。 また、電流容量の目標は1チップでの目標であり、多並列接続することにより大容量化を図る予定です。縦型MOSFETに関しましては、本課題である「脱炭素化のエネルギーシステム」への適用領域の電圧帯を考えると、現状の横型MOSFETと縦型MOSFETの耐圧構造での高耐圧化への実現の容易性を鑑み縦型に限定しております。</p>
		8	21	<p>政府・経済産業省には、水素による蓄エネルギーについての早急な実証(及びデータの公表)を行い、産業界がその利用に取り組めるようにしていただきたいと考える。</p>	<p>経済産業省では、水の電気分解や燃料電池に加え、先進的な水素製造技術、水素発電技術など、幅広く水素に関する研究開発及び実証を行っていると考えております。</p>
防災・減災	国家レジリエンス(防災・減災)の強化	9	1	<p>「スマートフォンやSNS等コミュニケーション基盤を活用した適切な避難等を実施可能とする新規技術」「光ファイバーを使った光ファイバーセンシング技術」「Cバンドのフェーズドアレイレーダ(二重偏波機能を有することも必要)の開発」「台風被害予測のための航空機を用いた高精度直接観測」など研究開発内容の提案。(同様3件)</p>	<p>今後の検討において参考とさせていただきます。</p>
	9件	9	2	<p>地震の予測を推進する技術的・経済的方法が十分考えられる事、よって必要な予測情報を自動抽出する情報技術をご提案する。</p>	<p>基礎研究として長期的に研究すべき課題であり、残念ながら、基礎研究から実用化・事業化まで一貫通貫で研究開発を行うSIPの趣旨には合わないと考えております。</p>

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		9	3	広域型豪雨災害の研究展開には、線状降水帯と台風、各分野の専門家チームから成る現行の研究組織では不十分であり、梅雨・台風・モノ降水系の専門家を拠点大学・研究所からも新たに集め研究組織の拡充が強く望まれる。	今後の検討において参考とさせていただきます。
		9	4	文書等だけでは解釈の祖語等の可能性もありますので、正式な公募開始時点で「説明会」等の開催をご検討いただきたくお願いいたします。	公募に当たり、説明会の実施を予定しております。
		9	5	研究開発法人と企業・大学が共同体としての応募の他、単独で応募した後、上位機関によるマッチングでの共同体の構築など、具体的に示す方が応募しやすい。また、防災科研との契約方法や契約形態についての記載もあるべき。 5カ年の中で、研究が始まった後で携わる業者を増減できる仕組みがあるほうが望ましい。	公募検討の際の参考とさせていただきます。
健康・医療	AIホスピタルによる 高度診断・治療システム 6件	10	1	本課題に対する「産婦人科分野への応用」、「経験と勘を要する作業への応用」、「医療業界におけるデジタル技術活用化」、「高齢化社会における医療・ヘルスケア分野の課題解決」、「プロジェクトの成功」等に関する期待や賛同。(同様5件)	当課題の推進において参考とさせていただきます。課題全体としては疾患分野を限定せず、医療の質の向上や医療現場での負担軽減につながる取組としています。
		10	2	サブテーマBについては、まずは日本語の標準語での対応を優先する進めるべき。	個別計画を具体化する際の参考とさせていただきます。
		10	3	既存の技術やシステムの利用についての提案。(同様3件)	既存施策の成果の活用も考慮し効率的な計画遂行に努めます。
		10	4	「AIホスピタル」の概念についての質問。	病院全体としてIoTやAI技術を活用することで、これまでよりも質の高い医療や医療従事者の負担軽減を図る病院を「AIホスピタル」と定義しました。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		10	5	海外での取組情報を参考にすべき。	海外の取組状況もふまえ計画立案をしております。
		10	6	がん領域を最優先とするなど、対象の選択と集中が望ましい。	今後の検討において参考とさせていただきます。
		10	7	「医療費抑制」等についての質問。	本システムの実装により、早期発見、重症化予防、最適治療薬の選択、薬剤副作用の回避を実現し、医療費増加の抑制を実現すると考えます。
		10	8	「AIホスピタル」の scope を拡大し、「AIヘルシーコミュニティ」研究開発への拡大や、その国際展開の提案。(同様3件)	将来的にはそのように考えております。
		10	9	「モデル特区の設定」や「規制のありかたの検討」に関する提案。	モデル病院における運用に際しては、規制官庁とも連携する予定です。
物流(陸上・海上)	スマート物流サービス 7件	11	1	トラックに積込可能なリフトを活用すれば、納品・配達における荷役作業負担の軽減や効率化を行う事が出来る。	今後の検討の参考とさせていただきます。
		11	2	流通過程における品質劣化等を原因とする食品ロスを解消するという観点で、生鮮食品の輸送中の品質や環境のモニタリングシステムを開発する必要がある。	御意見の内容は課題07「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の内容とも関連がありますので、課題07と連携し対応を検討致します。
		11	3	研究開発項目(A)～(C)を横断的かつ包括的に活用する大規模実証実験を実施する必要がある。	実施は計画しておりますが、実施体制は今後の検討のとさせていただきます。
		11	4	海外との輸出入を含めたサプライチェーンがスマート物流サービスの対象であることを明確化する必要がある。	今後の検討の参考とさせていただきます。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		11	5	「積載効率の定義化」、「ブロックチェーンで取り扱うデータの明確化」、「ブロックチェーン以外の技術の検討」、「既存のデータベースやプラットフォームとの連携」、「荷姿貨物情報自動認識技術開発や積み合わせ解析システムの検討・開発の先行実施」、「中小企業の物流センターでの自動化の仕組みの検討」、「低コストの数値目標の設定」、「RFID普及のために単価以外の解決すべき課題の検討」、「パレット輸送普及等に向けた流通技術開発の実施」、「プラットフォームの運営方式の検討やプラットフォーム規格の標準化の検討」、「データ特性・地域特性・商品特性等の物流・商流に大きな違いを生じさせる要素・要因の検討」等を行う必要がある。(同様14件)	今後の検討の参考とさせていただきます。
		11	6	「バリューチェーンとそのプロセスの業界ごとの検討」、「物流・商流データプラットフォームへ展開させるべきデータの種類の検討」、「データ提供のためのインセンティブの検討」、「スマート物流サービス全体としての定量的目標の設定」、「物流データと商流データの連携の検討」、「出荷・配達先の違いでのデータ属性、見える化の対象、商品情報の内容の詳細な検討」等を行う必要がある。(同様7件。)	業界横断的研究テーマにおいて検討を計画しております。
		11	7	プラットフォームサービス実現のための設計要件の検討を年次ゴールに記載すべきである。	研究開発計画に既に記載されております。
		11	8	研究開発成果を開示して頂きたい。	適宜、研究成果の報告会等を実施することを計画しております。
		11	9	研究開発項目(A)と研究開発項目(B)は連携することが必要である。	必要な連携に取り組んでまいります。
		11	10	既存RFIDによる実証実験を行うことや実際の物流ユースケースを想定した研究開発を行うことが必要がある。	研究開発項目(C)において実施を計画しております。
		11	11	RFIDの貼付装置や自動化へ向けた投資が必要である。	民間資金による投資を期待しております。
		11	12	農産物の輸送中の品質の見える化や品質保持技術の開発が必要である。	御意見の内容は課題07「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の内容とも関連がありますので、課題07と連携し対応を検討致します。
		11	13	物流・商流データプラットフォームに用いる通信インタフェース、情報モデル、通信電文のスキーマ、通信セキュリティの標準化動向調査の上、標準化提案することを研究開発に盛り込む必要がある。	研究開発項目(A)において実施を計画しております。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	NO	no	御意見等	御意見等に対する考え方
海洋	革新的深海資源調査技術 3件	12	1	水深3000mを超える深海からの揚鉱技術に関しては、過去に行われたマンガン団塊の研究開発でエアリフトおよびポンプリフト方式による実海域試験の実績があるほか、エアリフト方式については深海石油の商業生産において実績があり、既に一般的に用いられている。レアアース泥の揚泥技術確立のためには、実績のあるこれらのエアリフト/ポンプリフト方式を深化させることが最も可能性が高いと考えられ、例えば「東京大学レアアース泥開発推進コンソーシアム」では、これらのエアリフトおよびポンプリフトを用いた方式での研究開発が進められている。第二期SIPにおいて他の方法をとるのであれば、その方式を具体的に説明し、それを採用する根拠や従来研究および商業開発における実績などを述べて意見を求めるべきである。	既存の深海掘削船を最大限に利用する観点より、エアリフト/ポンプリフト方式も含め検討を継続し、関係業界から広く御意見を聴取しながら、最適なシステムの構築に努めます。
			2	2000m以深の深海を効率良く調査する技術を開発し、社会実装するという大変難しい課題に挑む点を高く評価する。民間企業への確実な技術移転を実現するために、テーマ3が極めて重要と考えられることから、十分なリソースを配分すべきである。	御意見を踏まえて今後計画を推進いたします。
			3	深海をAUVを用いて効率良く調査する技術は、資源探査のみならず海底ケーブル等の維持管理にも活用できることから、社会実装が大いに期待される。確実な社会実装を実現するために、十分なリソース配分を行うべきである。	御意見を踏まえて今後計画を推進いたします。